

20歳代にキャリアチェンジした中年期女性のライフ展望

—キャリア・アンカーの検討—

Career Anchors of Women In Middle Age

渥美 孝子

跡見学園女子大学大学院
人文科学研究科臨床心理学専攻

Takako Atsumi

Division of Clinical Psychology, Graduate School of
Humanities, Atomi University

宮崎 圭子

跡見学園女子大学

Keiko Miyazaki

Atomi University

要約

本研究では、20歳代にキャリアチェンジを経験しながら、環境に適応しようとしてきた中年期女性が、現在どのように自己のライフキャリアを認識し、理解するのか。また、今後どのように自己のライフキャリアを展望していくのかを明らかにすることを目的とした。インタビュー協力者は、20歳代でキャリアチェンジ（結婚・出産・育児などにより退職、あるいは転職）をした中年期（40歳代及び50歳代）の女性2名であった。（1）あなたは、現在、仕事をしていますか、（2）あなたは、なぜ仕事を辞めたのですか、（3）あなたは、その時、それについてどのように考えていましたか、（4）あなたは、今、それについてどのように考えていますか、（6）あなたは、どのような将来にしたいですかの5つの質問項目を作成し、半構造化面接を実施した。また、質問項目（5）として、「20歳代に退職し家庭に入った中年期女性」と「20歳代から仕事を継続している中年期女性」をそれぞれ想定した2種類の刺激文を提示し、感想を述べてもらった。計量テキスト分析である共起ネットワーク分析を用いて、中心性の高い語を抽出し、検討した。その結果、各インタビュー協力者より、ライフキャリアを特徴づける「キャリア・アンカー」とみられる中心性の高い語が抽出された。

【Key word】 中年期女性、キャリアチェンジ、キャリア・アンカー

I. 問題

1. 我が国における女性労働力の重要性

平成29年度のみずほ総合研究所の調査（2017）によると、労働力人口は6,648万人、労働力率は60%であるが、男女別、年齢5歳階級別の労働力率を同じとすれば2065年の労働力人口は4,000万人弱と約4割減少し、労働力率は50%程度まで低下す

ると考えられている。したがって、女性の労働率を男性と同程度に引き上げなければ、将来の労働力率を現状並みとすることはできない。このように、今後の日本は、女性の就業希望者を増加させる視点が欠かせない時代になっている。

2. 我が国における働く女性の現状

我が国においては、女性の労働力人口比率が20～30歳代を中心に低下する、いわゆるM字カーブ問題が指摘されている（総務省，2014）。内閣府が2017年に行った調査によれば、1986年の男女雇用機会均等法が施行以降、女性の就業率は上昇し、平成28年は66.0%と最近30年間に約13%ポイント上昇した。特に、子育て期の25～44歳の女性の就業率は、平成28年には72.7%であり、平成24年から28年までの4年間の上昇は著しい。しかしながら、女性の就業率を年齢階級別にみると、いわゆるM字カーブになっている。最近30年間にM字カーブの底は大幅に上昇し、くぼみが浅くなるとともに、全体的に大きく上方にシフトしている。このことは、子育て期の女性の就業率拡大を意味している。一方、近年進みつつある女性の晩婚化・晩産化に伴う影響等も指摘されている（総務省，2014）。

3. 「キャリア・アンカー」に関する先行研究の概要

1) Schein (1978,1990) の研究

Schein (1978) は、マサチューセッツ工科大学経営スローン学部の男子卒業生44名を対象として、1961年から1963年、1973年に縦断的聞き取り調査を開始した。その結果、長期的な仕事生活の拠り所として「キャリア・アンカー」が見いだされた。「キャリア・アンカー」とは、個人がキャリアを選択する際に、自分にとって最も大切に、これだけはどうしても犠牲にできないという価値観や要求、動機、能力などを意味する。これには、「専門・職能別コンピタンス」「全般管理コンピタンス」「自立・独立」「保障・安定」「起業家的創造性」

「奉仕・社会貢献」「純粋な挑戦」「生活様式」の8つのカテゴリーがあることが明らかになった（Schein, 1990）。Schein (1990) は、人はひとつのキャリア・アンカーを持ち、そのキャリア・アンカーは不変であると言及している。

2) 中川 (2009) の研究

中川 (2009) は、15年以上の職業経験を持っている女性5人を対象に、Schein (1990) の「キャリア・アンカー自己分析表」の質問項目を用いて、半構造化面接を実施した。その結果、Scheinの提唱したキャリア・アンカーである「保障・安全」「生活様式」と女性特有のキャリア・アンカーだと思われる「脱伝統」「関係性」「夢」「目標」が明らかになった。さらに、中川 (2009) は、それぞれの女性のキャリア・アンカーが複数あること、それぞれの重要度が環境やライフステージによって変化することを言及している。

3) 中川 (2012) の研究

中川 (2012) は、女性のキャリア・アンカーが変化していくものであるという中川 (2009) の研究結果をもとに、質的研究を行った。この調査は、「地域活動」、「大学・大学院への進学」、「就職・転職・起業」のいずれかの選択を行った中年期女性20名を対象に、半構造化面接を実施した。そして、得られたインタビューデータを修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチにより分析した。その結果、全対象者が、大きな危機とそれに伴う葛藤を経験していること、その中年期の危機を契機に新しいライフキャリア選択をするプロセスを辿っていることが明らかになった。そのうえ、新しい「ライフキャリア・アンカー」

として、「ヨコのつながり」、「自分探し（モラトリアム）」、「自立」、「怒りをパワーに」、「役割の再選択」の6つのカテゴリーが見出された。

このように、中川（2012）は、極めて興味深い研究を行っている。中年期女性の「ライフキャリア・アンカー」として、新たな6つのカテゴリーを明らかにし、日本の中年期女性の現状に鋭く切り込んでいるのではなかろうか。

しかしながら、研究対象者の中年期女性の20名は、地域活動やNPOを設立、あるいは大学や大学院進学といった華やかなキャリア選択を行っている人達を中心に選定されているように思われる。果たして、多くの日本人女性が、このようなキャリア選択を中年期にしているのだろうか。一般女性たちは、どのようなキャリアライフを辿っているのだろうか。

表1 インタビュー協力者プロフィール

語り手	年齢	結婚歴、家族形態	初業務
Aさん	50歳代	既婚、夫・子ども2人	エレクトーン講師
Bさん	50歳代	既婚、夫・子ども2人	技術系翻訳

2. インタビュー時期

2018年5月中旬～9月下旬

3. インタビュー実施方法

インタビュー時間は、50分程度とした。最初に研究の趣旨、協力者の権利について説明を行い、同意書への署名を求めた。その後、逐語化して分析を行うため、許可を取ったうえで、ICレコーダーにてインタビュー内容を録音した。実施場所においては、協力者が承諾した場所（例えば、研究者の自宅、あるいは、対象者の自宅などのプラ

II. 目的

以上より、本研究の目的は、20歳代にキャリアチェンジを経験しながら、環境に適応しようとしてきた中年期女性が、現在どのように自己のライフキャリアを認識し、理解するのか、また、今後どのように自己のライフキャリアを展望していくのかを明らかにすることである。また、その検討の中で、彼女たちのキャリア・アンカーを抽出していくことも目的である。

III. 方法

1. インタビュー協力者（以下、協力者と略記）

研究者のネットワークをもとに、研究同意が得られ、かつ20歳代でキャリアチェンジした中年期（40歳代及び50歳代）の女性2名（表1）を選定した。

イバシーが保護された場所）を選択した。

4. インタビュー内容

1) 質問項目

インタビューは半構造化面接を採用した。インタビュー項目は、下記の通りである。

- (1) あなたは、現在、仕事をしていますか。
- (2) ①<辞めた経験がある場合>
あなたは、なぜ仕事をやめたのですか。

②<辞めなかった場合>

あなたは、なぜ仕事を続けられたのですか。

③<仕事の経験がない場合>

あなたは、なぜ専業主婦を選んだのですか。

(3) あなたは、その時、それについてどのように考えていましたか。

(4) あなたは、今、それについてどのように考えていますか。

(5) あなたは、どのような将来にしたいですか。

5. 整理方法

「KH Coder」(樋口, 2014) の計量テキスト分析における分析法の1つである、共起ネットワークを用いて質的データを整理した。

1) 「共起ネットワーク」

「共起ネットワーク」とは、出現パターンが似通った語、すなわち共起の程度が強い語を線で結んだネットワークのことである(樋口, 2014)。本研究では、強い共起関係ほど太い線で描画され、出現数の多い語ほど大きい円で描画されるように設定を行った。また、社会ネットワーク分析で言う「中心性」による色分けも行った。「中心性」とは、それぞれの語がネットワーク構造の中でどの程度中心的な役割を果たしているかを示すものである(樋口, 2014)。本研究では、語の色分けは「媒介中心性」(それぞれの語がネットワーク構造の中でどの程度中心的な役割を果たしているのかを示す)によるものであり、水色<白<ピンクの色の順に中心性が高くなることを示す。

2) 「KWICコンコーダンス」

「KWICコンコーダンス」とは、分析対象のファイル内で抽出語がどのように用いられていたのかという文脈を探ることができるものである(樋口, 2014)。この際、必要に応じて特定の品詞や、特定の活用形で出現しているものだけを検索することができる(樋口, 2014)。KWICとはKey Words in Contextの略で、検索機能・検索結果のことである。本研究では、「KWICコンコーダンス」の機能を用い、検索した語とその前後40文字で構成された文章を抽出した。その文章の不要な部分を省略し、見やすくしたものを使用例として載せた。

3) 妥当な共起ネットワークの確定

本研究では、語の出現回数を2回から順に共起ネットワーク分析にかけた。採用するネットワーク図を決定する際に、臨床心理学大学院教員1名・臨床心理学大学院生5名で検討し、以下の基準に従い、選定した。

- a. 中心性の高い語数が多いもの
- b. ネットワーク上の単語数が多いもの
- c. 中心性の度合いの高い単語数が多いもの

6. 倫理的配慮

本研究は、跡見学園女子大学研究倫理審査委員会において承認を得ている(承認番号18002)。

IV. 結果と考察

1. Aさんの結果と考察

分析にあたっては、語の最少出現回数を2回から順に設定し、共起ネットワークの分析をした。その中で中心性の高い語が多い、最小出現数5回の共起ネットワーク図

を採用した(図1)。その結果、中心性の高い語として、「健康」「大変」「ストレス」「大事」「多い」「言う」「人」という語が得られた。また、それらの単語が、協力者の発話内で、実際にどのような使われ方をしているかをKWICコンコーダンスの使用例において、検討した(表2～表8)。

特に中心性の高い「大事」から、Aさん

は、今まで「自分を大事」に生きてきたことが、介護を気持ちよくできたことに繋がり、今後は旦那さんを「大事」にしていこうという考え方にたどり着いたということが推察できた。よって、Aさんのキャリア・アンカーは「自分が大事だと思うものを大事に生きてきたこと」であると考えられる。

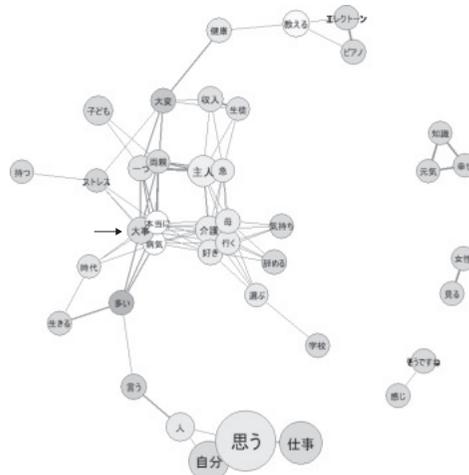


図1 Aさんにおける最小出現数5回の共起ネットワーク

表2 AさんのKWICコンコーダンス「健康」の使用例

健康	健康ということがテーマで、体に良い食事や運動ということを考えて、ストレッチ教室をやったり、お料理教室をやったりということ/主人の手術もうまくいって健康に働ける体になって退院できたので、/教える仕事は辞めて、今の健康ということをテーマに仕事をしていく方を選んだ/3人の親を見ていくというのが私の中にはあったので。あの、本当にその3人が健康でいてくれたら、やはり私としては嬉しいことだし、/人間誰でも健康ってことがテーマではないのかとっていて、体が元気ならば、心の精神も元気かなあって思っていて、/健康でなければ幸せ、自分の幸せもちろん家族の幸せもないのかなって思っているの、/仕事が多々健康に関わる仕事なので、みんなが健康でいてもらうために、私が何が出来るかって/仕事を通じて皆さんが健康で幸せに生きていたらいいんじゃないかなって思うところですかね。/
----	---

表3 AさんのKWICコンコーダンス「大変」の使用例

大変	主人の収入だけでは一家の収入減としてはとても大変だということに気づき、/自分の中で介護が大変だったっていう思いは今思い返すと、そんなにないんですけども。(省略) その時には、大変だったって思っていたんだと思うんですね。(省略) 結局、まあ介護してきたのも大変だなんて思わなかったのは、そんな自分を大事にさせてもらった(省略) 自分が本当に大変なんだと思っちゃう人は大勢いるし、(省略) 人それぞれを基準に大変だと言っているかわからないと思うんだけど、(省略) 私は大
----	---

	<p>変だったかもしれないけど、そんなに大変じゃなく通り過ごせたのは、心が満たされて /今この時代、生きるの大変なことだと思うんです。/子どもの世代が生きていくのはも っとこの先大変になっていく/</p>
--	--

表4 AさんのKWICコンコーダンス「ストレス」の使用例

スト レス	<p>この社会、<u>ストレス</u>が多い時代になってきてるかなあ/<u>ストレス</u>だけでなく、いろん な環境的な要因もあって、/女性はやはり男性より負担が大きいと思うんですよ。どう しても<u>ストレス</u>もたまりやすいし、/我慢で<u>ストレス</u>が多い中で、やはり介護って出来 ないと思うんですね。/<u>ストレス</u>が色々な病気を起こしていく原因の一つかなあって思 ったりするんですよ</p>
----------	--

表5 AさんのKWICコンコーダンス「大事」の使用例

大事	<p>私は結構自分のやることを大事にしてきたというか、自分を大事にした生き方をしてきた/<u>主人のことを大事</u>にしていたかなと思った時に、足らなかった/<u>自分を大事</u>にさせて もらってきているっていう思いがあったので、介護気持ちよくできた/<u>主人を大事</u>にし なければいけない/<u>普通</u>、子どもが<u>大事</u>っていう人の方が多いと思うんですけれども、 (省略)子どもはもちろんですけど、子どもが<u>大事</u>というよりも、まず自分が<u>大事</u>だと してきたとあって、/いろいろなことに目を向けることが<u>大事</u>なのではないかと思っ ています。/<u>国として食の大事</u>さを/<u>料理を通じて食の大事</u>さを皆さんにお伝えして、 (省略)精神ともに健全になっていくことを<u>大事</u>にしていたかなと思った時に、足らな かったな、<u>大事</u>にする仕方が。/<u>主人をもうちょっと大事</u>にしようと思ったので。今は きっと結婚後、主人の事を一番<u>大事</u>にしようと考えて行動してるかな/<u>私は家庭の中</u> で、母親という位置付けがすごく<u>大事</u>で、母親の知識が重要だと思っているんです。/</p>
----	--

表6 AさんのKWICコンコーダンス「多い」の使用例

多い	<p>子どもの知り合いが来るということが結構<u>多</u>かったし、そうするとやっぱり、人間関係 もちょっと面倒くさいなあって思う部分もあって、/自分を大事にした生き方をしてきた かなあと思っているんですよ。普通、子どもが<u>大事</u>っていう人の方が多いと思うん ですけど、/子どもが<u>大事</u>というよりも、まず自分が<u>大事</u>だとしてきたとあって、/<u>介 護</u>をすると我慢することが<u>多</u>くなると思うんですけど、しかも、女性はやはり男性より 負担が大きいと思うんですよ。どうしても<u>ストレス</u>もたまりやすいし、どちらかとい うと、自分のことは子どもの次と思った時に、自分のやりたい事は後回しにするとい う人が<u>多</u>かったかなと思うんですけど。/<u>私は</u>、やっぱり我慢で<u>ストレス</u>が<u>多</u>い中で、<u>や はり介護</u>って出来ないと思うんですね。/<u>1ヶ月半</u>、息子が家にいることが<u>多</u>くて、<u>声 をかけてはいけない</u>って思いながら、見守るっていう姿勢を貫き通したんですけれど も。/<u>一つのことに集中</u>しちゃうと、後の行動が止まったり悩みが<u>多</u>くなったりする じゃないかなって思っていて。そういう意味では、いろいろなことに目を向けることが <u>大事</u>なのではないかと思っています。/<u>自分より年を重ねている人の人生</u>いかライフス タイルとかを見るんですけれども、どちらかというと他の職場より<u>多</u>いほうかなって。 私の仕事では、先に進んでいる方たちがいるので、自分の10年後がこういうふうを送 りたいとかいうイメージがね。/<u>この社会</u>、<u>ストレス</u>が<u>多</u>い時代になってきてる (省略) やはり<u>ストレス</u>が色々な病気を起こしていく原因/<u>食生活</u>が違ってきていて、その食生 活の中で育っていく子どもたちに大きな影響が出ているんじゃないのかなって感じる ことが<u>多</u>い/</p>
----	--

表7 AさんのKWICコンコーダンス「言う」の使用例

言う	<p>主人にどっちの仕事にするが一つにしろと<u>言</u>われたのもあったりして、(省略)辞める</p>
----	---

ならずと辞めてしまえと言われたので、結局、自分の中でやりきった感があって、(省略)人それぞれどれを基準に大変だと言っているかわからないと思うんだけど、/悔いがないと言ったら嘘になっちゃうのかもしれないけど、/一カ月半ぐらい学校に行かないと言う事が続き、/大動脈解離と言って血管が裂けちゃったんですけど。/自分より年を重ねている人の人生と言うかライフスタイルとかを見るんですけども、/この先がどうなのかって言ったところでとっても不安を感じてるんじゃないのかなって思うんですよ。/みんなが健康でいてもらうために、私に何ができるかって言ったところで、今この時代、生きるの大変なことだと思うんです。/仕事と介護を続けてきている中で、子育てで言えば、意外と私は放任な方かなと思います。/自分と言うものを持って自分のためにこれから何をしたら良いかと考えていたら/自分の母に関して言えば、母の介護というか、私の母は統合失調症で/

表8 AさんのKWICコンコーダンス「人」の使用例

人	<p>子どもたちは、おばあちゃんから習いたいかと思った時に若い人からの方がいいんじゃないかなって思ったりもして。将来的にこの仕事が、主人の仕事になり変わる仕事だと思ふことが難しくなり、/子どもの知り合いが来るということが結構多かったし、そうするとやっぱり、人間関係もちょっと面倒くさいなあって思う部分もあって、まるっきり知らない人にして来てもらった方が気が楽な部分もあってしていたので。/自分を大事した生き方をしてきたかなあと思っているんですよ。まあ、普通、子どもが大事っていう人の方が多いと思うんですけども、/子どもはもちろんですけど、子どもが大事というよりも、まず自分が大事だとしてきたとあって、(省略)自分のやりたい事は後回しにするっていう人が多かったかなと思うんですけど。/私は、やっぱり我慢我慢我慢我慢でストレスが多い中で、やはり介護って出来ないと思うんですね。/自分が本当に大変なんだと思っちゃう人は大勢いるし、人それぞれどれを基準に大変だと言っているかわからないと思うんだけど、/両親が亡くなった時も急だったんで、人の死というのは急に起こるっていうか、/この人のおかげで私が自由にできている好きにできていると思った時に、主人をもうちょっと大事にしようと思ったので。今はきつと結婚後、主人の事を一番大事にしようと考えて行動してるかなと思っています。/この人の気持ちはわかりますよね。子どもが離れる時があるわけじゃないですか。その時にこう虚しい気持ちになったんだろうなっていう感じがわかるかなあ/お子さんだけ一生懸命になられた人が良く陥ることなんじゃないかと思うんですけど、/自分と同じ仕事している人の先を行っている年代の方がこの仕事をしていて、こうなるんだという見本がないっていうのは、確かにこの先の不安というかイメージができていくかなって思うので、そういう人がいないのはなんか残念というかもったいない感じしますよね。/何かきつとそういう人を見ると、自分もこうありたいこうなりたいというイメージがもて、これからももっと充実した人生が送れるような気がします。/自分より年を重ねている人の人生と<u>言う</u>かライフスタイルとかを見るんですけども、/こういうふう生きていきたいなあっていうお手本になる人はいるのはすごくよかったかなって思います。それが今まで仕事をしてこられた要因だと思いますね。/その人自身が輝いてためにそういう方がいらっしゃるとよかったですね。/他に目を向ける人が同じ職場でなくても見つける事ができると、その方の素敵なことに繋がるんじゃないかなあと思うんですけど。/私も仕事から皆さんに料理を教えているというが食の大切さを皆さんにお伝えしている中で、意識のある人と意識のない人ではすごく食生活が違ってきていて、その食生活の中で育っていく子どもたちに大きな影響が出ているんじゃないかな/娘たちには知識を身に付けて自分が子どもを産む時には進んでそういうふうにしてもらいたいなって思ってますし、娘の周りがそういう人たちで溢れてくれたらすごく嬉しいなって思っています。/</p>
---	--

2. Bさんの結果と考察

分析にあたっては、語の最少出現回数を2回から順に設定し、共起ネットワークの分析をした。その中で中心性の高い語が多い、最小出現数7回の共起ネットワーク図を採用した(図2)。その結果、中心性の高い語として、「家」「仕事」「子ども」「見る」という語が得られた。「仕事」と「家」は重なり合い、「子ども」と「仕事」が線で結ばれている(図2)ことから、関連性が高いと考えられる。KWICコンコーダンスの使用例「家」「仕事」「子ども」

も」「見る」において、検討した(表9～表12)。

特に中心性の高い「家」から、Bさんが子育て最中の時には、家が育児の場であり、仕事をする場でもあったことが推察される。よって、Bさんは「家」を中心にキャリア選択を試み、子どもと仕事のバランスを保ちながら生活を営んできたことが明らかになった。したがって、Bさんのキャリア・アンカーは、物理的な家の意味ではなく、「子どもや仕事を含んだ家」と考えられる。

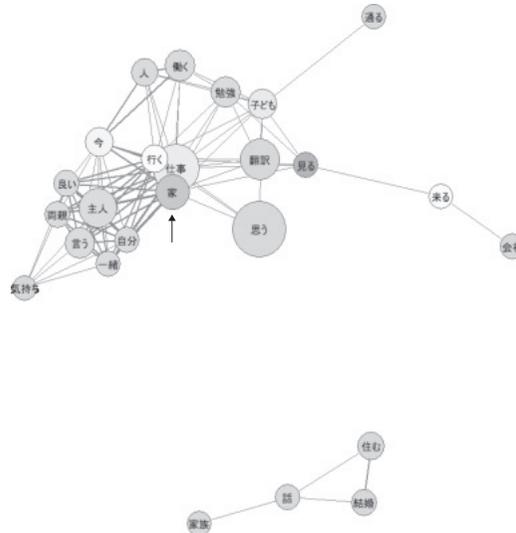


図2 Bさんにおける最小出現数7回の共起ネットワーク

表9 BさんのKWICコンコーダンス「家」の使用例

家	<p>職場で仕事することもありますし、家で仕事をもらうこともあり、/家でご飯を食べることも少なくなりますし、家を出たりとかもしれませんし。/その時に社せず、家でやりたいという希望出しまして、/途中、家で仕事をしていて、締め切りが近くてイライラしていたりすると、/最初から全面的に家で働くという選択か、週に何回か決まって出社するか、/その頃、完全に家でやっていると、/今度は家で仕事をしたい。/子どもが小さい時には子どもと一緒に家にいたくて、翻訳の仕事とと思ったんですけども。/結婚する予定の人がお正月に家に来た時にそのシステムは素晴らしいという話をしていて、/主人の家が農家なので今も主人がその農家の仕事を手伝っているわけですけども。/将来的には主人の実家に一緒に住んで、/彼女の家と家との間でちょっと意識の差と言えますか、/翻訳を選んだのは、家で仕事をしたかったんですね。子どもを育てな</p>
---	--

がらやりたいと思っていましたので。/通えなくなっても今度は家で仕事をしたい。/子どもたちの方から「こんなにイライラするなら家で仕事をしないで」と言われたことがあって。/主人はこの家に必要なのは料理だと判断して、クックパッドを見ながら料理を始めたんですね。/翻訳とか校閲の仕事を家でやるようにしたいなどは思っています。/

表10 BさんのKWICコンコーダンス「仕事」の使用例

仕事	<p>校閲の仕事をしながら、翻訳の仕事をしませんかというお誘いをいただきました。/翻訳の仕事をしたいとは思っていたんですけども、翻訳に慣れるために校閲の仕事をやって、翻訳とか校閲の仕事を家でやるようにしたいなどは思っています。/業務委託という形ですので、職場で仕事することもありますし、家で仕事をもらうこともあり、翻訳の仕事をしたいとは思っていたんですけども、/子どもが小さい時には子どもと一緒に家にいたくて、翻訳の仕事と思ったんですけども。/家で仕事をしています、締め切りが近くてイライラしていたりすると、/その時には派遣の仕事も登録したは、いいんですけど、来なくて、/主人の家が農家なので今も主人がその農家の仕事を手伝っているわけですけども。/子どもを育てながらやりたいと思っていましたので。それが自分のその時の目的だったので、仕事と結びつけていて、それが目標としていたので、/仕事の幅が広がったという感じですかねえ。/上の息子が高校3年生の受験のときに、それまでは毎日、仕事に行っていたんですけども、職場の人間関係に疲れたというのと同時にやってた仕事が医学系の分厚いマニュアルみたいのが多くて、(省略)家でやりたいという希望出しまして、仕事を受けるようになったんですね。/仕事以外に勉強する習慣を継続することができ、/将来的には主人の実家に一緒に住んで、畑も少しやりつつ、仕事をやるというふうにしようかなと思っています。/実は主人が緑内障があるんですね。(省略)主人をサポートしつつ、できれば、仕事もして収入が入ったらいいなと思っています。/翻訳を選んだのは家で仕事をしたかったんですね。子どもを育てながらやりたいと思っていましたので、/毎日行くという前提で仕事をするようになり、(省略)ブランクがあって再開して1年くらい経った時に仕事をいただくことになったんですけども、/やっぱり翻訳家の方々は定年後にお仕事をする方が多いんですね。主人の方も私の実家の方でも本当に介護が必要になった時には仕事をするのができないなと思っていますので。/主人は仕事をやめて、それから半年ぐらい経ってからマンションの管理人をやっています、/外部の翻訳者さんが訳してくださって、それが原文と合ってるかどうかというのを両方見ながらチェックするという仕事です。/徐々に仕事に慣れてきたなという感じです。/その頃、完全に家でやっていると、減ってきて、季節的に仕事は多い時とない時とあるんですね。仕事は来なくなってしまって、/彼女が大阪で働き始めたので、うちの息子はそれに合わせて、大阪で転職することになり、ようやく仕事が決まったんですけども。(省略)大阪で頑張って仕事もして欲しいし、良い家庭を築いて欲しいなというものはありますし。/70ぐらいには目が見えなくなるかもしれないというもあり、そうすると畑仕事もできなくなりますし。/80の先生を目標にしているようにできるだけ長く仕事をしたいなと思っています。/うちの主人も仕事から帰ってくるの遅かったんですけども、/バリバリ仕事をさせていた/</p>
----	--

表11 BさんのKWICコンコーダンス「子ども」の使用例

子ども	<p>子どもを育てながらやりたいと思っていましたので。/子どもがもう2人いるのがわかっていたので上の方が協力的な方だったんですね。子どもの長期休みは出社しないでいいという。(省略)子どもが小学生の間は長期的な休みをいただき。/子どもが小さい時には子どもと一緒に家にいたくて、翻訳の仕事と思ったんですけども。/子どもたちとそういうふうにしたことがないので真面目にそういうふう子どもたちに聞いてみたい気がしますし、/締め切りが近くてイライラしていたりすると、子どもたちの</p>
-----	---

方から「こんなにイライラするなら家で仕事をしないで」と言われたことがあって。/
 子どもたちに頼んで、家事を輪番制にしたんですね。/1年半通ったところで、2人目
 の子どもを産もうとおもったんですね。/子どもが小さい時には子どもと一緒に家にい
たくて、翻訳の仕事と思ったんですけども。/子どもに強いる親というのは一体どう
 いうのか/子どもと一緒に遊ばせていろいろ話をすることができましたし。/

表12 BさんのKWICコンコーダンス「見る」の使用例

見る	外部の翻訳者さんが訳してくださって、それが原文と合ってるかどうかというのを両方見ながらチェックするという仕事です。/翻訳に慣れるために校閲の仕事をやって、いろいろな人が翻訳をされているのを見て勉強しました。/細かいところまで見たりとか、1から訳すのと、人が訳したのを見るのでは、仕事としては違うものになりますが、/主人はこの家に必要なのは料理だと判断して、クックパッドを見ながら料理を始めたんですね。またそういう父の姿を見て息子たちも「お父さん作ってくれたから僕が洗うよ」というようにどんどん私の家事の負担が減ってきて。/家族の人も見てて心配になると思うんですね。/お母さんが働いているのが当たり前なので、そういうお母さんを見て、ご家族はもっと理解してるんじゃないかなと思います。
----	--

V. まとめと今後の課題

先行研究をもとに、本研究では、20歳代にキャリアチェンジ（結婚・出産・育児などにより退職、あるいは転職）をした中年期（40歳代および50歳代）女性2名にインタビューを行った。計量テキスト分析共起ネットワークの結果より、ライフキャリアを特徴づける「キャリア・アンカー」とみられる中心性の高い語が抽出された。

今後、青年期でも変容する可能性があるのか、インタビュー協力者の幅を広げ、青年期のキャリア・アンカーを抽出していくことが必要であると思われる。その検討は今後の課題である。

VI. 謝辞

本研究の趣旨に賛同し、インタビューに協力してくださった皆様に感謝いたします。また、執筆にあたり、最後まで丁寧にご指導くださった宮崎圭子先生、および、相談にのってくださった宮崎研究室の皆様

に厚く御礼申し上げます。

VII. 引用文献

エドガーH. シャイン (2003). 金井壽宏 (訳). キャリア・アンカー—自分のほんとうの価値を発見しよう. 白桃書房.

Schein, E. H. (1978). Career Dynamics : Matching Individual and Organizational Needs. Addison-Wesley Publishing Company.

Schein, E. H. (1990). Career Anchors : Discovering Your Real Values. Pfeiffer & Company.

総務省 (2014). 情報通信白書平成26年度版 第1部特集ICTがもたらす世界規模でのラタイムシフト. 第1節ICTの進化によるライフスタイル・ワークスタイルの変化. 求められるワークスタイルの変化と女性の活躍.

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h26/jtml/nc141210.html> (2018年1月9日取得)

内閣府男女共同参画局 (2017). 女性活躍推進法による女性活躍の加速・拡大に

- 向けて—平成29年版男女共同参画白書から—(1)働く女性の活躍の現状と課題。
<http://www.gender.go.jp/index.html>
(2018年1月9日取得)
- 中川浩子 (2009). シャインの「キャリア・アンカー自己分析表」による女性へのインタビュー調査の限界と可能性. 東京女子大学紀要論集, 60(1), 145-167.
- 中川浩子 (2012). 中年期女性のライフキャリア・アンカー—新たにライフキャリア選択をした女性へのインタビュー調査—. コミュニティ心理学研究, 15(2), 99-116.
- 樋口耕一 (2014). 社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して. ナカニシヤ出版.
- みずほ総合研究所 (2017). 少子高齢化で労働力人口は4割減—労働力率引き上げの鍵を握る働き方改革. <https://www.mizuhori.co.jp/publication/research/pdf/insight/pl170531.pdf> (2018年1月9日取得)
- 室松慶子 (2014). キャリア・アンカーの多重性と相互排他性: 言語学研究の視点からの分析. 東洋法学, 58(2).